

山北町立川村小学校

研究テーマ：人権を尊重し、互いに認め合い励まし合って、ともに伸びていく子どもの育成
～学ぶ喜びを感じる授業の創造～

1 実践の目的

テーマ設定の背景

昨年度までの3年間、「確かな知識に基づいて豊かに伝え合う子どもの育成」を柱として研究を進めてきた。研究の窓口を国語科とし、これまで学習したことを積み上げ、活用しながら学び、根拠をもって伝え合うことができるような授業をめざし、研究に取り組んできた。この研究により、子どもたちが既習事項を活用しながら学習を進めることができただけでなく、教師自身も単元でつきたい力を明確にし、その力をどの場面でどのようにつけていくのかを考えながら授業実践を重ねることができた。

今年度は、昨年度までの研究を基盤とし、さらに子どもたちが生き生きと学び、学ぶ喜びを子どもも教師も感じられるような教師のあり方、単元構成について研究を深めていくため、研究教科として社会科を設定した。また、教科の学びを深めるとともに、子どもたち同士の関わりを大切にし、ともに伸びていこうとする子どもを育成していくことで、学校教育目標の実現に向かって取り組んできている。

これからの予測困難な社会の変化に対して、子どもたち一人ひとりが主体的に関わり、他者と対話し、協働しながら自分の強みや良さを発揮し、よりよい社会の創り手となる力を身につけられるよう、本テーマを研究主題とした。

2 実践の内容

4年社会科「昔から今へと続くまちづくり」の実践に向けて、次のような取り組みを行った。

(1)職員研修会

本単元は、山北町の治水に尽くした先人の功績や努力についての学習である。毎年4年生で扱っていたものの、職員の入れ替わりがあり、実際の場所がわからなかったり歴史的な事実を知らなかったりする職員もいた。そこで研究会の前日、川村用水に関する研修会を行った。この研修会を通して、山北町の特徴ある地域教材について共有するとともに、職員自身が研究会に参加するための事前の知識を得ることができた。研修会後にも、積極的に資料を見返したり、質問したりするなど、職員一人ひとりが当事者意識をもって主体的に学ぼうとする姿が見られた。

(2)授業実践

本単元は、江戸時代という子どもたちにとっては、遠い昔の出来事を扱うことになる。その中でも子どもたちが主体的に学んでいけるよう、実際に瀬替えをした場所に現地見学に行ったり、用水路の開発において、岩を掘削した道具を実物で用意したりした。このような手立てを講じていくことで、子どもたちがより実感を伴いながら学習に向かうことができていた。授業者自身が役場に出向いて取材をしたり、多数の資

料を取り寄せ、子どもたちにとってわかりやすいものを精選したりすることで、子どもたちが当時の様子を想像しやすくなるよう地域素材を教材化する工夫をしていた。

研究授業の中では、実際に道具を持ち、岩を穿つ様子を再現する活動を取り入れた。

道具を持った子どもたちからは、

「これで作業していたの!？」

「重くて持つのが大変」

など、当時の人たちのすごさや苦労を実感している様子が見られた。また、その様子を見た子どもたちも、作業の大変さを想像し、当時の人たちに思いをはせている姿も見られた。

教師の深い教材研究と手立てが、子どもが主体となる学習の支えとなっていた。



3 実践の成果

(1)ともに学び合う教師

今年度の研究窓口を社会科としたことで、これまでよりも一層単元について話し合ったり、わからないことを取材したりするなど、教師が主体的に深く教材研究をする姿が見られた。また、子どもたちの思考を大切に、「問い」が繋がっていくためにはどのような単元構成にしていけばよいか、授業展開はどのようにしていけばよいかなど

何度も検討し、学ぶ喜びを感じる授業をみんなで創り上げようとする姿が見られた。



(2)地域とのつながりによる主体的な学び

社会科の授業実践をとおして、地域素材の教材化にも力を入れることができた。子どもたちにとって身近で魅力ある地域素材を扱うことで、子どもたちは実感を伴いながら理解をすることができていた。また、実際に見学をしたり、インタビューを行ったりするなど地域に入り自分の目で見て、体験することで、地域とのつながりとともに、自分たちがたくさんの人に支えられていることにも気づくことができた。今後も、地域の力を生かし、教材化をしていくことで、子どもたちが自ら疑問や課題に対して、主体的に解決できるように努めていきたい。



4 今後の展開

今年度の成果である、子どもと教師がともに学び合うことのできる風土をこれからも継続、定着させ、「学ぶ喜び」にあふれる学校づくりを行っていきたい。

また今年度の研究では、多くの地域の方々に協力をいただき、子どもたちにとって実りのある学習を行うことができた。今後も地域教材の開発を積極的に行い、身近な地域から学ぶことで、子どもたちの主体的な学びを促し、深い学びへとつなげていきたい。